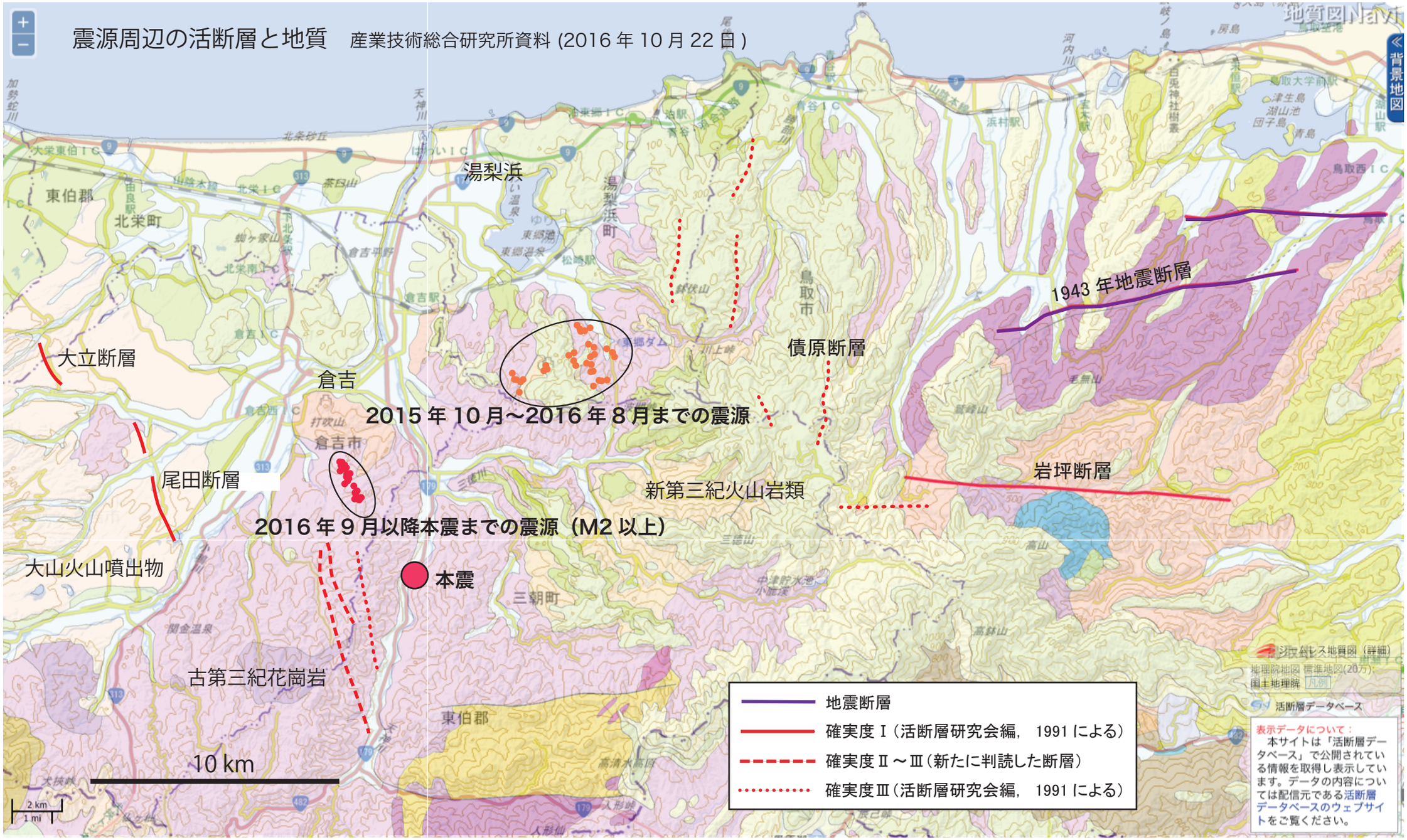

震源付近には白亜紀の火山岩や古第三紀の花崗岩類が基盤として分布し、東側ではそれを新第三紀の火山岩類が覆っている。また、西方には大山の火山噴出物が広がる。震源周辺には顕著な地質断層は知られていないが、南―北から北北西―南南東方向の短い活断層が複数分布する。また、震源の約 20km 東方には 1943 年鳥取地震の地震断層など、東西方向の活断層が知られている。

本震位置は防災科研 Hi-net の自動処理震源、その他は、気象庁一元化処理の検測値を用いて産総研が再解析。背景は地理院マップと産総研地質図 Navi。